

それ行け! 地区社協

地区社協のイメージ
100%活動



地区社協とは…市内49の小学校区ごとに設置され、誰もが安心して暮らすことのできるまちづくりのために、地域住民が自らの手で地域の特性に応じた地域福祉活動を展開している団体です。

国見地区

●人 □ 1,255人
●高齢化率 37.37%
●地区発足 昭和55年6月1日

国見地区社協では、平成13年11月から「シルバー喫茶」をオープンしています。

全ての町内で毎週開設しており、74名のボランティアスタッフで運営されています。5会館それぞれに親睦会の名刺がついていて、そのうち川合会館の1つ「鮎川」では、毎週20名を超える参加者で賑やかに開催しています。

「毎週とても楽しみにしている。ここに来るとみんなの顔が見ることができ、元気になれる。これからも、ずっと参加していきたい」というお声ばかりで、飲み物とおやつをいただきながら、花札や雑談話に花が咲き、みなさんの顔は自然と笑顔にあふれています。

これからも、心豊かに楽しい時間を過ごしていただける「シルバー喫茶」にしていきたいと思えます。



中瀬島地区

●人 □ 11,553人
●高齢化率 18.77%
●地区発足 昭和40年4月1日

中瀬島地区社協では、昨年度から「地域包括ケア会議」(東包括支援センター主催)をきっかけに、認知症への理解と予防の活動に熱心に取り組んでいます。中瀬島地区ふれあいまつりでの毎年新築完成の美術館、敬老会で認知症についてのミニ講座を実施するなど、多くの人に認知症についての啓発を行っています。9月に開催された「地域包括ケア会議」では「認知症を深く理解するために」

「今地域でできること」をテーマに、事例をもとにグループごとにどんな支援ができるかなどを話し合いました。今後も、東包括支援センターと連携しながら、認知症に対する普及啓発活動に力を入れていきたいと思っています。



麻生津地区

●人 □ 8,734人
●高齢化率 24.44%
●地区発足 昭和38年11月1日

麻生津地区は、昭和40年後半に団地ができ人口が増加し、活気ある若い地区に形勢が大きく変化しました。その後40年たった現在、団地では、空き家、ひとり暮らしが目立ち、またその他の地区でも高齢者世帯が多く、さまざまな面で影響が出ています。「隣は何をする人ぞ」と言っている時は過ぎ「お互い様」互恵あいの精神なくしては生活できない程になっています。

こうした現状の中「マップ作り」を通して人々の関係が密着になるよう取り組んでいます。共通時はもちろん、日々の突発的事故・病気、そして精神的なケア等に反映できるよう、民生児童委員・福祉委員と自治会が連携をしながら地区全体で進めています。

住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、高齢者、障害者のみならず、若い元気な人たちのためでもあるという観点から「マップ作り」を行っています。



湊地区

●人 □ 9,357人
●高齢化率 26.06%
●地区発足 昭和51年3月31日

湊地区社協では、6つの部会・委員会に分かれ、部長と事務局10名余の専任役員が中心となり事業運営をしています。

食事サービス・広報紙発行・福祉委員と民生児童委員の合同研修会等はかなり定着してきているので、今年は、自治会型デイホームの充実を力を入れています。

広報紙だけでなく、口コまで広げたり参加者のお友達を誘いおおうと常に呼びかけています。また、新規や男性の方に参加してもらえるよう月1日は、スティックリングやグランドゴルフ、健康講座、椅子大会等を企画し、毎週大いに盛り上げています。「暑が痛いから一緒にプレーはできないが見学だけね」という方もおり、楽しみことのひとつになっているようです。

なお、9月28日は「そば打ち」を企画しています。



酒生地区

●人 □ 3,642人
●高齢化率 25.51%
●地区発足 平成3年7月5日

酒生地区社協では、毎年12月の第1土曜日に「男女で作る料理教室」を開催しています。特に女性の参加を呼びかけ、男性にも料理の楽しさを知ってもらい、少しでも食生活に関心を持っていただくことを期待しています。

講師には、地区在住でかつて居酒屋を経営されており、現在各地で料理の講師として活躍されている元「調子」の氏を招いて「自分で作る居酒屋料理」として開催されており、楽しく学べる料理を教えていただいています。

日々男性の参加者が増え、奥のさばき方やイカの塩辛、出し巻き卵の作り方などを教わり、真様のエプロンを着用して着了を持つ姿はごくなくもなかなか様になっています。

みんなでお食事をしながら、「うまいの〜」「自分で作るのもいいもんや」と話が盛り上がり、時間も深まりとても楽しいひと時となっています。今年も12月1日の実施に向けて、募集や内容について準備を進めています。たくさんの方に参加していただけることを期待しています。



清水南地区

●人 □ 2,500人
●高齢化率 31.20%
●地区発足 平成22年4月1日

清水南地区社協では、敬老会とふれあい福祉まつりを同時に開催しています。

今年度も180名を超える参加者で、講演会や自主グループの発表のほか、デイホームのズンドコ体操や西谷支援センターの健康相談など、にぎやかに開催しました。ズンドコ体操では、慣れた人が、初めて体操をする人に教えていたり、健康相談では、認知症の講座をグループ単位で

したいという声があがったり、福祉に対する意識が高まってきています。休憩時間には、食卓の外でベタンクやオムツのブースを設け、みなさん盛んに買って楽しんでいました。

これからも自治会をはじめ民生児童委員、福祉委員、保健衛生推進員、各種団体やボランティアさん等と連携を図りながら福祉活動を進めていきたいと思っています。



内山地区

●人 □ 8,080人
●高齢化率 21.37%
●地区発足 平成2年11月9日

内山地区では、昨年から敬老会を社会福祉協議会が主催となって、社会教育会および公民館の協力を得て行っています。

敬老会対象者については、敬老会事務局で名簿を作成、民生児童委員がチェック、福祉委員が案内・申込みの確認に軒一軒回りします。寄せられた情報を日々の発行りに役立てています。式典、アトラクション(合唱團発表の演技、フラダンス、歌謡ショー、民謡)の際に、自治会型デイホームの案内を兼ね、専任職員による健康体操を入れて、体をほぐしていただいています。もう少し長いと良かったね〜の感想もありました。

敬老会運営の主力となり「参加者の笑顔、スタッフの方々の奮しめない協力、参加者への心遣いに感謝」の気持ちをあらたにしました。



順化地区

●人 □ 3,812人
●高齢化率 33.08%
●地区発足 昭和49年11月1日

順化地区社協では、地域福祉の輪を広げようと、自治会と公民館の協力を得て各家戸を訪ね、タオル等の集出を頂いて無断にし、福祉市社協を通じて福祉施設等に届けています。

この活動も今年で46回目になり、これまでに届ったタオルの累計は10万本を超えています。今年もタオル約1,700本、他にも石鹸や雑巾などたくさんの住民の皆様のご厚意が集まり、多くの福祉施設等に届けられました。

毎年、たくさんのお礼の言葉をいただき、有効に活用されていることを嬉しく思っています。

